

酪農

規模拡大続き、乳量増加 給食需要で都府県移出も伸び

ホクレンの生乳受託量が道内地区別トップで、全国有数の酪農地帯の十勝。今年も生乳生産量は前年を越えるペースで推移している。



湧洞牧場で放牧される乳牛(10月、大樹町)

道内大半の生乳を集荷するホクレンによると、2020年度の十勝管内の生乳受託量は、上半期(4～9月)合計が63万7668トンで前年比2.9%増。地区別の受託量は十勝がトップで、全道の31.5%を占める(全道全体は202万4636トンで2.5%

増)。

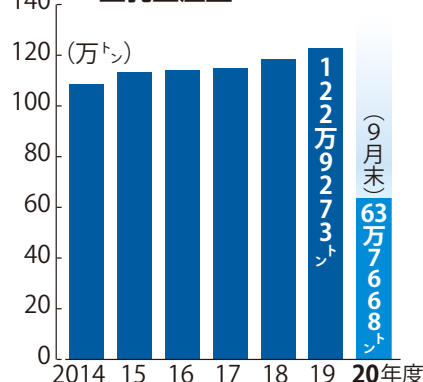
十勝の生乳受託量は昨年度まで9年連続で過去最高を記録。今年はさらに更新が期待されるなど生産が順調なのは、規模拡大が進んでいることが背景にある。

全国的な離農を受けて生乳の安定確保が求められているほか、近年は乳価の上昇も規模拡大を後押し。十勝農協連の調査によると、管内の19年の乳牛飼育頭数は2%増の23万7047頭。乳牛飼育戸数が1258戸(2%減)で減少が続く中、頭数は3年連続で増加。全国でみても17.8%を占めている。

また北海道酪農検定検査協会(札幌)のまとめでは、生乳生産がピークになる6月の十勝管内1頭1日あたりの平均乳量は33.3リットルと過去最高だった前年同月と並ぶ高水準。乳量が伸びている要因は頭数だけではなく、粗飼料の品質の高さや、乳牛の改良の成果が出ている。

今年には新型コロナウイルスの影響もあった。春先の休校措置で給食牛乳用の生乳を加工に回した一方、飲用需要が高い夏場は、学校の夏休みが短縮となり給食用の需要が増えた。夏から秋口を中心に需要が逼迫(ひっつき)し、道内から都府県に送られる生乳の量も増えている。

◆十勝管内のホクレン向け生乳生産量



BIOFIBER・DAMINO

キャンペーン実施中

Provita
Animal Health Naturally

健康な子牛が牧場の未来をつくる！

ミルクに混ぜるトータルサポート混合飼料

バイオペクト

デンマークにて開発、改良を重ね
世界各国の酪農現場で40年以上の確かな実績

特殊加工・選抜された
植物とグルコース、電解質により、
消化不良になる前と、
なってしまった後もサポート

※本製品は医薬品ではありません

子牛の消化不良や
軟便でお困りのとき
これ一つで迷わず安心



規格 5kg 缶 (1箱:2缶入り)

高品質フロバイオティクス混合飼料

プロテクト

英国のVMD(獣医学研究局)から認可
エビデンスにより確かな効果を証明

3種類の選抜された
有用な乳酸菌のはたらきにより、
腸と肺の健康を維持し、
子牛の良好な成育をサポート

※本製品は医薬品ではありません

生後できるだけ早く、
子牛導入等の
ストレス時にも



規格 100ml ボトル (1箱:6ボトル入り)

輸入販売元
株式会社ファームテック ジャパン®

[本 社] 北海道札幌市清田区真栄4条2丁目8-1 TEL.011(885)3307 FAX.011(885)3308
お問い合わせは … 担当: 中村 [TEL.080(8292)4126] まで